

アルバム

# 岡崎市民大学



文化環境の充実を目ざして

岡崎市長 内田喜久

昨年までの教育文化大学を市民大学として開講した。延べ六日間の六講座であるが、講師に分子科学研究所の初代所長赤松秀雄先生や、基礎生物学研究所の準備委員長桑原万寿太郎博士など、多彩な顔ぶれをそろえたこともあって、大勢の市民の皆さんの参加を得て喜んでいる。

った。

開講式の席上私は、岡崎の文化的風土が、市民の手によって高まりつつあることは、お互いにとって誇りであると思はれた。そういえば、昨秋開いた文部省の移動芸術祭も大変な好評を博し、立派な成果を上げたが、他の都市にはない成功だとのことで、大いに意を強くしている次第である。今年も、九月に、第二回の移動芸術祭を予定している。

文化や教育の地方分散が叫ばれて久しいが、地方都市における文化的風土の成長は容易でなく、過去の例からも、市民大学が成功をおさめることは少ないとされたこともあって、会場も岡崎中央支店ホールとしたところ、聴講者が七百名を大きく超えて、会場を変更することにな

市民大学の参加も、一般市民が大半を占め、老若を問わず、ご夫婦そろっての聴講もあってうれしい限りである。

(市政日より九月一日号随想より)

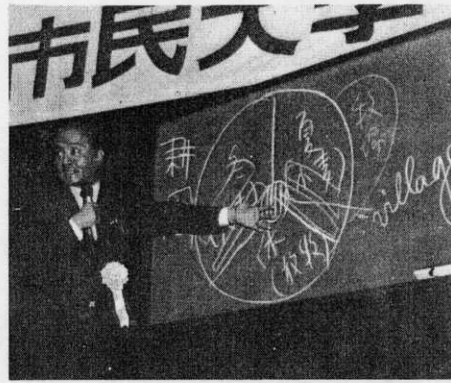


題字・市長

# 肉食世界の市民生活

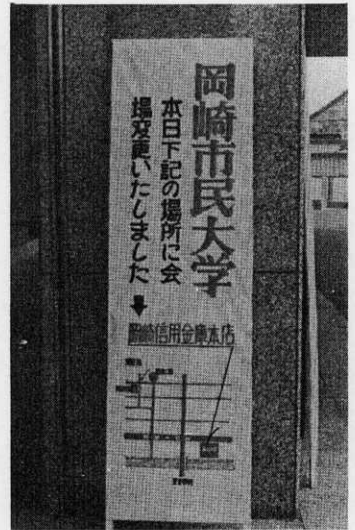
京都府立医科大学教授

鯖田豊之先生



●とき 七月二十七日  
●ところ 岡崎信用金庫本店

●ヨーロッパには偏食が少ない。離乳期からわが国の単一的な「おもゆ」とは違い、ゴツ煮のうわずみ（スープ）のような雑多な食物を与えている。肉食中心のヨーロッパの食生活が必然的に偏食の助長を防いでいるのである。（講座から）



## 見直すきっかけ

欧米を旅行した友人たちの告白の一つに、食い物の悩みが出る人が多い。

ちんまりと揃って、味噌汁ならぬジュースに浸してしゃぶった話やら、度重なる肉料理に胃袋を痛めつけられ、ついに、

敵意をむき出しにして血のビフテキを賽の目に刻み、塩をふりかけて（なめくじではあるまいに）そのままテーブルを離れた話やら……を聞くと、「君も純血日本種であつたかよ。」と、うれしくな

つたものだ。かくいう私自身「お天道さまと米の飯がついてまわる世界」などと気楽な気持ちででかけた東南アジアで著

せられたものである。「アジアの多様性」の片鱗を感じさせられたものである。豊かな自然の恵みを受受する風土に生

## 反響

「え、そんなにも申し込み者があつたのか。運営委員一同、まさに驚いた。うれしい悲鳴である。急拠、会場変更を協議。岡信本店にお願いすることになった。開講式、引きもきらさぬ人の群れ。駐車場はあふれるばかり。

これら、うれしい悲鳴のなせるわざなのだろうか。

きてきた私たちにとっては、「人間が生きていくために、その条件を人間が整備していかなければならぬ世界」というのは、容易になじめないし、理解できにくいものと思われる。

## 求めてやまない願い

ヨーロッパの「三圃制度」の話は、学生時代にもどつた気持ちで聞くことができた。

科学先行のヨーロッパ人の思考や、「人間の食へものは人間が作るんだ。」という発想はその風土に培われるところが多し。肉食世界の人たちの合理的な生活様式の基盤や、共同生産的な考え方と「三圃制度」とのかかわりについては、たいへん興味深く思った。

東加茂郡からテープレコーダーを持ちこんで、わざわざ出かけた人もいる。

あとから、あとからやって来る人々。いつ果てるともわからない。もつとも、遅れて来た人々は、予定の岡信中央支店に行つたとのこと。

明治以後、日本が「肉食がぜいたくでない世界」から学んだことは多い。それだけに、同一平面上でヨーロッパと日本とを比較することの危険に触れ、多様な文化形成の根本に立ち至って理解をはかる過程が、結局、共存のみちであることを見直す」視点を得たのである。（教員・渋谷環）

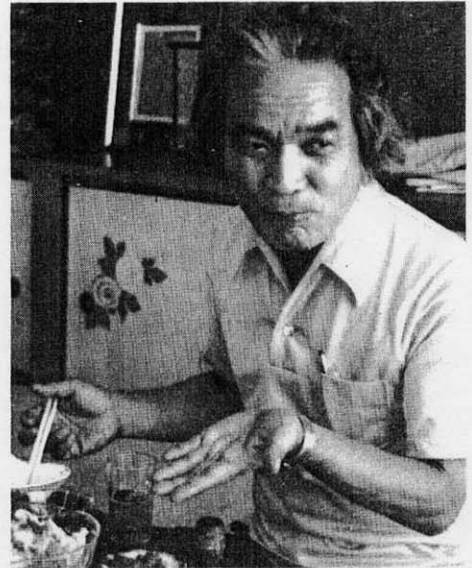
社会生活に水の重要性を再確認する思いであつた。その自然の中に順応する人間の生活の知恵や願望追求への努力の優れているのに驚きを禁じ得ない。

海外旅行に行った人の多くが、日本の良さを述べられる。緑と太陽と清流に育まれる自然こそ、私たちの求めてやまない願いなのである。（教員・角谷米三）

# イスラム世界の文化

京大人文科学研究所助教授

吉田光邦先生



## イスラム世界に学ぶ

黒布で全身を包み、大きな瞳だけを見せる女性。熱砂の中に積木細工のような土の家がゴミゴミと立ち並ぶ町。何か神秘的でもあり幾分か拒否反応を示したくなる様なイスラム文化の世界、そんな知識しか持ち合わせないわたしは、興味を持って会場に急ぎました。

会場となった城北中学校の体育館には、あちこちに緑の杉の葉をあしらった氷柱が立てられており、係の先生方のご苦労が涼気となって歓迎してくださるようでした。

吉田先生は、ソフトな話しぶり、イスラム世界が他の宗教世界と異なり、生活・文化、そして政治までもが、イスラ

ム教の信仰と深いかわり合いのあること、コーランの持つ広い生活規範や、神の前に平等な人間として生活する宗教的行事等について、わかりやすくお話しくださいました。魔仏乗釈に見せた日本人と宗教のかかわりは、今日の道德教育のあり方と合わせ考えなければならぬ大切な問題のように思われました。せめてお盆の行事については、家族全員の宗教行事にしてみたいなどと考えたことでした。

(主婦・市橋 美智子)

●イスラムというのは、いわゆるわれわれが仏教・キリスト教と考えるような宗教ではない。そこでは、宗教イコール民族であり、宗教イコール社会である。(講座から)

## 開かれた眼

エルサレム・ベツレヘム・ユダヤ人・聖地……。私は幼い時、キリスト教会でよく耳にしました。最近いろいろ宗教がさかんになり、子供がキリスト教関係の幼稚園にお世話になったりして、一度調べてみたいと思っていたおりました。吉田先生のお話を伺うことができほんとうに良かったと思っています。特に暦のことや尺貫法についての話が興味深く、その意外さに驚き眼を開かされた思いでした。

仕事と家事に追いつけられている毎日、ニュース解説を聞いても、わからないことばかりです。これからの国際情勢を考えていく上にも、やはり民族・思想の違いなどからくる問題を理解していかなければと痛感いたしました。専門家の先生にわかりやすく話していただき、少しでも前向きに広い視野にたつてくらししていけるよう、その橋わたしとしての役割を市民大学に期待します。

(主婦・篠原 信子)

## イスラムと日本

イスラム世界における宗教と民族との強い結びつき。私にとって宗教は、単に行事的存在にすぎなかったのだが、余りにも大きな違いが目が向けられた。イスラム教を代表するコーランには、精神的な問題だけでなく生活のシステムまでも綴られているという。さらに民族の強い団結を強調しているばかりか、広く政治・社会についても発言しており、大きな影響を及ぼしているとか。

現在イスラムの世界は、変動する世界情勢の中、「政治と宗教」「ナショナリズム」といった問題をかかえている。宗教によって築かれた強い力は、他国に脅かされることなく、自らの手で問題解決の道を歩むであろう。だが、日本はどうだろう。強い結びつきを、どこに求めることができるだろうか。日本民族の結びつきは、宗教以上のものなのか。本年もまた、お盆が来たが……

(高校生・長嶋比奈美)

●とき 八月三日  
●ところ 城北中学校



## 動物の言葉

上智大学教授

桑原万寿太郎先生

●とき 8月10日  
●ところ 城北中学校

■生命現象 — 講座から —  
○…ローソクの炎は灼熱した炭素が光っているわけですが、その炭素の粒子というのは絶えず入れ替わっています。にもかかわらず炎は同じ形を保っています。生物もこれに似て物質を代謝しつつ自己同一を保っている、これが生物の本性であり生命現象の重要な点です。

## 科学者・詩人

一茶も白秋もスズメの言葉が理解できたという。物質的欲望のみにとらわれ細やかな情感が失われがちな昨今、小さな生き物たちのささやきに私たちはそっと耳を傾げるべきではなからうか。矢作の川面を飛翔するハクセキレイをみつめながらそんなことを考えていた。

大学の休暇で帰郷中の私はたまたま母校、城北中学で桑原万寿太郎氏の講座を聴講する機会に恵まれた。なつかしい先生方、熱心にメモをとる多数の市民。テーマは「動物の言葉」。動物は本能に従い、人間とは異質のメカニズムの上でそれぞれが職を分担、協調し、無秩序と思われる動きの中に一つの精緻な社会を構成しているとか。わけてもミツバチの社会の見事さを氏は強調された。ミツバチは意思をダンスで伝え、花のありかを仲

間に知らせる。分封に際しては衆議一決客観性を帯びた評価を當果候補地に与えることができるそうだ。動物をいづくしむ心と知的探究心とにうらうちされたその細やかな語り口は科学者としての良心にみちているとともに詩人の繊細な心情とも通じ合う。

人間の言葉は動物のそれと峻別され、前者は後天的に付与されるものの水と同じようなもの。一行の詩が口ずさめなくなった時——そんなことも氏はおそらく言外に蔵されていたのであろう。対話を通してお互いを容認しあう時、自然は従容としている。

講座をおえた人々の姿に校庭の緑とあいまって何かすがすがしいものを感じさせられた。

(大学生・川辺泰正)

私は元来生き物には弱い。だから、およそ動物のことはなどを聞きかける耳を持っていない。そう決めてかかっていた。何の子備知識も持たないまま、講演会に出席しました。しかし

## 無感心・関心・感心

しかし、生物学というものの説明から始まった講演も、動物の生まれた時から通じる本能的なことばの例があるところになると、今まで無関心であった私の乏しい経験の中にも、「なるほど」と思う節が随所に表れ、ぐいぐいと引き込まれるよう

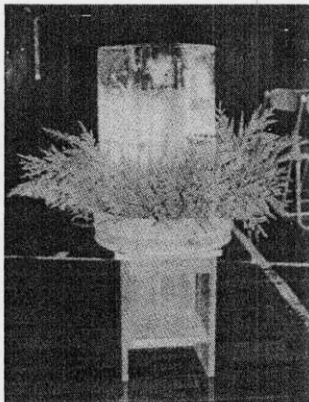
に聞かせていただきました。動物の本能というものは、まことにすばらしい力だと改めて感心させられています。そして、動物の言葉を、もつと多くの人間が知ったなら、お互いを傷つけすぎることもなく、も

生き物はどうも苦手だと思っていた私も、これからは、もつと小鳥の鳴き声、はちの飛び方にも注意してみようと感じさせられた講演会でした。  
(教員・鈴木 堪子)

## 横 溢

いつの間にか、とりことなってしまったミツバチの世界。桑原先生のお話が続く。

「あの、ちょっと」隣りの人が指さす。氷柱を立てたたらいから、水が溢れ出ているというのだ。あわてて立ち上がる。暑熱と会場の熱気とで氷の溶け方は早かった。



# 日本の心

金田一先生には初めてお目にかかったわけだが、どうしてもそんな気がしなかった。思えば、中学生の頃、明解国語辞典で「京助、春彦」先生のお名前を拝見してより今日までなんとなく身近な先生という感じをもっていた。

その先生、全く期待どおりのすばらしい講演であった。二時間余、先生の一言一句に吸いつけられっぱなし。

わたしの最も感銘深かったこと、それは、日本語を通して、日本の心を語られ



たことである。日本の心とか、そんなことは一言も述べられなかったけれども、日本語の種々相を浮かび上がらせることによって先生はそういうことを訴えられたかったに違いない。わたしはそう思うのである。

(教員・鳴田 稔)

●：日本語は、優に三か国語、四か国語を使っているのと同じほど、たいへん豊かな言語です。方言のちがいに、女と男のことばのちがいがい、さら「です・ます体」のちがいもあるからです。(講座から)

## 日本語とはどんな言葉か

上智大学教授

### 金田一春彦先生

中学へ転任し、国語の指導について校長先生に御教示いただいたところ、「国語がおもしろくなるように教えること」との明快なご解答だった。しかし、実際に生徒の前に立ってみると、ただ、難語句の読みと解釈、内容精査とそれに文法的な指導も入り、規格品のように指導するだけ。我ながらもどかしさを感じていた。九月七日、金田一先生の講演は、そんなことから「何か手がかりを」と、求める気持ちで出かけたのだった。

先生の講演は、まさにその手本を示してくださったようなものだった。「日本語」は、以前読んだことがあったが、それにも増して先生の肉声を通してお聞きする日本語は、興味尽きる所なしといった感じで、何げなく聞いている言葉のひとつひとつをも楽しく聞かせていただいた。改めて日本語というものを見直させられたのだった。

次回また、先生の講演の機会があればぜひその美声を堪能するまで聞かせていただきたい。

(教員・松井 ひさ)

●とき 九月七日  
●ところ 城北中学校

## 日本語このよきもの

## この人・このとき

はじめて金田一先生にお会いし、その穏やかさ、あたたかさが、話される表情、内容にころよくとけ、想像以上のすばらしい先生であることを確かにしました。やはり日本語を深く愛する人なのだということが膚で感ぜられました。

先生は「日本人は昔から、義理・人情にあつく、人から何かしてもらったら、必ず返すことを忘れない心の働きのことまい、やさしい気持ちの人間である。」と言われました。それは、相手の気持ちを察しつつ話をするという会話の中にも反映しているようです。

数週間前、ヨーロッパを旅して、あらためて日本語の良さを知らされました。金田一先生のお話をお聞きし、ヨーロッパでの不自由だった言葉を思い出しつつ、日本語の良さをかみしめているころです。楽しい、有意義な時を過ごすことができたこのひとときは、いつまでも印象深く残ることでしょう。

(教員・山本 久美子)



## 遠くて近い人

「市民大学」という名前を聞いただけで気が遠くなるように思っていた私でした。思ってもみななかった高嶺の花の大学教授の話、じかに聞くことができました。写真や本でしか見られない、何かとても縁遠い方々のお顔を真近に拝見できました。ユーモアたっぷり、歌まで出てくる想像もつかないお話にすっかり魅せられてしまいました。

ある先輩が、「機会をとらえては聴講し、その中で何か一つでもよいから心にとめるものがあれば、それが収穫だ」と教えてくれたことを思い出し、出席することにしたのでした。とかく小さな殻にとじこもり勝ちでしたが、これからは、是非出席するようにしようという気持ちに変わって来ました。

申し込みをした時、子供から、「おおかさんがねえ」と言われてしまいました。母親が勉強すれば、それが子供にも反映するのではないかと考えたことでした。それぞれ専門の立場で、広く深いお話を聞くことができました。生きるために精いっぱい努力をしている人間や動物の話、うかがいました。あらゆる人々にこの感動をわけてあげたいと思います。

この会に出席できたことを、今はこの上なく喜んでおります。来年度の「市民大学」に期待しております。

(主婦・平野 可子)



## 歴史と人間

歴史家

奈良本辰也先生

●とき 9月21日 ●ところ 城北中学校

## 私の中の松陰

「吉田松陰」と聞いただけで、何かしら古めかしさを感じる私であった。かくいう私は、決して新しがり屋でもない。むしろ、古色愴然とした考えの持ち主でさえある。全く、いつものことながら、自身のあさはかさ、認識のなさに恥じいらされてしまった。

松陰の生きざま、特に教育にかける熱意に心あたたまるものを感じさせられた。吉田松陰は、決して遠い人ではなく、身

近な人であると思うようになった。

「人間はだれでも、よいものを持つているものだ。自信を持てば、悪いことをしなくなる。自信を与えることが何よりも大切だ」孟子の性善説を継承する松陰の教育観をうかがい、感銘を受けた。

淡々と語りかけられる奈良本先生の話にいつしか魅了された二時間でもあった。

(教員・柴田 隆夫)

●吉田松陰は、松下村塾に集まってきた一人一人の持つている長所を見つけ、自信を与えながら、本の世界に引きこませていった。高杉晋作がこの塾にはいらなかったならば、明治維新はもう少しおくれたりしていたのではなからうか。

## 探求者の鑑

学問を通して自由人として大きく成長していく松陰の意気ごみは、まさに、学問探求者の手本ともいえるべきだと思います。特に目を見張ることは獄中での教育であり、松下村塾での下級武士らの育成だと思えます。全くすばらしいことです。

(主婦・柴田 みち子)

## 支援

城北中学校のご協力がありました。学校をあげての支援は目を見張るばかり、会場設営、あと始末、ゆき届いた配慮にただ敬服。

「きょうは、子供会のソフトに出なくてはならないので、朝四時に起きて、お湯をわかしておきました」とは、校務員の石田さんの弁。

おかげで、冷たいお茶を飲むことができた。庭に篝の筋目が美しく引かれていた。

# 声



● 申し込みは、郵送でも受け付けるようにしてほしい。  
(主婦)

● すばらしい講演ばかりでした。もっと一般にPRしたらよいと思います。そのためにも早目に準備することが必要だと思います。  
(公務員)

● 都合もあると思うが、交通の便利なところを会場に選んでほしい。(主婦)

● たたえ受講料は高くなつたとしてもクローラーのある会場を選定していただけたら。  
(学生)

● メモをとるための机があれば、この上もなくよかつたと思います。(無職)

● 来年は、今年度と同一講師で内容をさらに深める講座が、二・三あつてもよいと思う。  
(教員)

● 東大中根千枝先生とか、政治家として活躍しておられる市川房枝さんとかの女性の講師も是非一人は加えていただけたらと思います。  
(主婦)

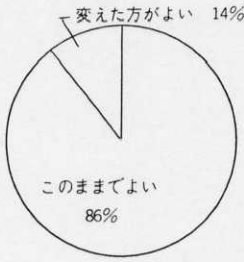
● 一般教養の装いとして通り過ぎてしまふものでなく、未知の学問を学ぶ機会としていただきたい。今後は、多方面に専門コースを設け、個人が選択できるような幅広い講座としていただきたい。  
(会社員)

● 夏季ばかりでなく、春秋いずれかの期間にも開催してほしい。多くの方の希望にも沿えるようになるう。現状では学習が持続せず単発的になつてしまひやすい。生涯教育の一環として全国

## アンケートから

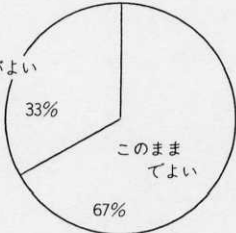
### ○期日について

・曜日



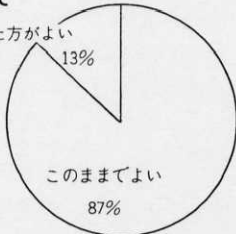
・期間

変えた方がよい



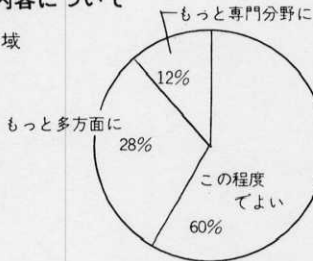
### ○講座数について

変えた方がよい



### ○講座内容について

・領域



## 市民大学講座参加状況

### ●会員数

計	内訳	
	男	女
789	471	318

### ●第5回までの皆出席者

計	男	女
157	81	76

### ●各回毎の出席者数

回	男	女	計
第1回	324	215	539
第2回	238	202	440
第3回	243	197	440
第4回	213	235	448
第5回	216	186	402
延参加人数	1,234	1,035	2,269

### ●昭和五十年

## 岡崎市民大学運営委員

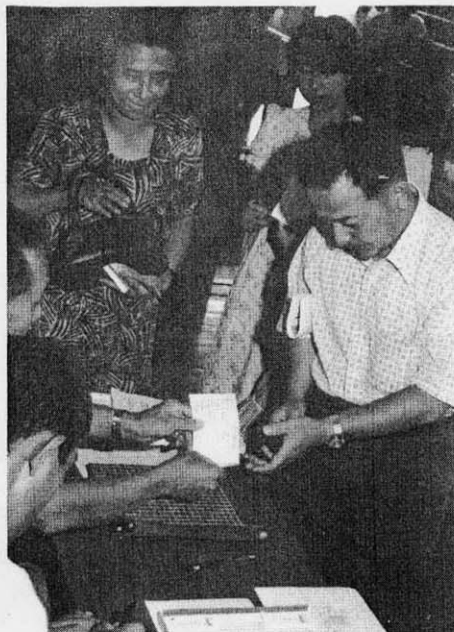
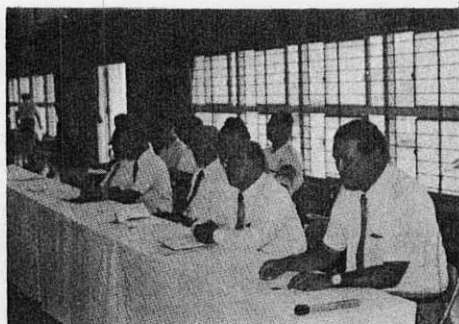
- ▽委員長 小笠原健治
- ▽副委員長 塚本 時丸
- ▽委員 岩瀬 米子 宇佐美利郎
- 太田 清美 河合 沢江
- 畔柳 吉朗 小久保 良
- 鈴木 義治 高木 良和
- 中村 義 長坂 一昭
- 長浜 宏雄 林 勝巳
- 早川 円浄 平野 有行
- 山内 満 山田 利一
- 吉見 和子 (五十音順)

※他に次の方々に格別のご協力をいただきました。(敬称略)

- ▽岡崎信用金庫▽報道各社▽城北中学校▽永田清一(市議)▽加藤庄一(レオ理事長)▽足助町教育委員会
- ▽岡崎市郷土館▽柴田隆夫、倉橋裕(男川小)

# A L B U M

- ▶ 「いらっしゃいませ」受付風景
- ▼ 暑さも忘れて
- ▼ 会場風景



- ▲ 声の流れベンが走る
- ▶ 会員券とノート
- ▶ 満足した顔、顔、顔

